ヨハネの福音書（44）
「ぶどうの木にとどまる人生」
ヨハ 15： 1 〜10

1. 文脈の確認
   (1) 前書き（1：1〜18）
   (2) イエスの公生涯（1：19〜12：50）
   (3) イエスの私的奉仕（13：1〜17：26）
      ①最後の晩餐（13：1〜30）
      ②階上の間の説教（13：31〜16：33）
         ＊新しい戒め（13：31〜35）
         ＊ペテロの質問とイエスの回答（13：36〜38）
         ＊父なる神への唯一の道（14：1〜14）
         ＊助け主の約束（14：15〜31）
         ＊ぶどうの木にとどまる人生（15：1〜10）

2. 注目すべき点
   (1) ヨハ 14 章は、階上の間で語られた。
   (2) ヨハ 15 と 16 章は、ゲツセマネの園に向かう途中で語られた。
   (3) 途中に、ぶどう畑があったと思われる。
   (4) 数時間後には、逮捕されることになっている。

3. アウトライン
   (1) イエスと父なる神の関係（1〜2 節）
   (2) 弟子とイエスの関係（3〜6 節）
   (3) 従順と祝福の関係（7〜8 節）
   (4) 愛と戒めの関係（9〜10 節）

4. 結論：今日の信者への適用

ぶどうの木にとどまる人生について学ぶ

Ⅰ．イエスと父なる神の関係（1〜2 節）

1. 1 節

Joh 15:1　わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。

(1) ヨハネの福音書に出てくる 7 番目の神性宣言である。

①「I am ○○」である。

(2) 旧約聖書では、イスラエルの民がぶどうの木にたとえられた。

①詩 80：8

Psa 80:8　あなたは　エジプトから／ぶどうの木を引き抜き／異邦の民を追い出して／それを植えられました。

②エレ 2：21

Jer 2:21　わたしは、あなたをみな、／純種の良いぶどうとして植えたのに、／どうしてあなたは、わたしにとって、／質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。

③イザ 5：1〜7、エゼ 15：1〜8、ホセ 10：1 など参照

④「ぶどう畑」にたとえられることもある。

(3) イスラエルとイエスの対比を見落としてはならない。

①神は、イスラエルを純良種の良いぶどうとして植えた。

②手入れをして育て、豊かな収穫を期待した。

③しかし、イスラエルは質の悪い雑種のぶどうに変わった。

＊酸いぶどうか、腐ったぶどうしか実らなくなった。

④イエスは、イスラエルの代表として神の計画を成就される。

＊それゆえ、イエスは「**まことのぶどうの木**」である。

(4)「**わたしの父は農夫です**」

①神は、摂理的主権を持っておられる。

②神は、信者が実を結ぶために、手入れをされる。

2. 2 節

Joh 15:2　わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。

(1)「**それを取り除き**」ということばの 3 つの解釈

①偽の信者は取り除かれるという意味

＊イスカリオテのユダがその例である。

②罪を犯したために救いが取り去られるという意味

＊これは、永遠の救いを保証する他の聖書の箇所から判断してあり得ない。

③信仰が後退しているので取り除かれるという意味

＊もしそうなら、これは肉体的死を意味する（1 コリ 11：30）。

（2）積極的解釈

①「取り除く」という動詞（ギリシア語のアイロウ）の意味

＊この動詞には、持ち上げる、取り上げるなどの意味がある。

＊弱っている枝を持ち上げ、より多くの光と空気に触れさせる。

②すでに実を結んでいる枝は、より多くの実を結ぶために刈り込みをする。

II．弟子とイエスの関係（3～6 節）

1．3 節

Joh 15:3　あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。

（1）ユダが離脱した後、残された 11 人に語られたことばである。

①彼らは、イエスにつながる「本物の枝」である。

②彼らは、イエスのことばによって清くされている。

③イエスのことばを信じるなら、義認と聖化を経験する。

④清めの手段は、みことば（聖書研究）である。

2．4 節

Joh 15:4　わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

（1）自然界のたとえを、霊的関係に適用する。

①相互の親密な関係性が示される。

②弟子たちは、「**まことのぶどうの木**」にとどまることで、実を結び続ける。

③弟子たちの責務は、イエスにとどまることである。

④自力で実を結ぶことは不可能である。

⑤実を結ばせてくださいではなく、イエスの中にとどまらせてくださいと祈る。

(2)「とどまる」という動詞（メノウ）

①ヨハネの神学のキーワードのひとつである。

＊ヨハネの福音書で 40 回、15 章で 11 回、書簡で 27 回出てくる。

＊彼は、主イエスとの交わりを楽しんでいた。

②イエスとの関係を意識的に維持し続けることが、実を結ぶための条件である。

③新約聖書が教える実

＊義の実（ピリ 1：11）

＊伝道の実（コロ 1：5～10）

＊御霊の実（ガラ 5：22～23）

(3) 神との関係構造

①父＝農夫

②子＝ぶどうの木

③信者＝枝

④枝は、「とどまり続ける」ことによって実を結ぶ。

3. 5〜6 節

Joh 15:5　わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

Joh 15:6　わたしにとどまっていなければ、その人は枝のように投げ捨てられて枯れます。人々がそれを集めて火に投げ込むので、燃えてしまいます。

(1) 多くの実を結ぶための条件

①自分では何もできないという自覚

②イエスとの神秘的祈りの交流

＊私がイエスの内に、イエスが私の内に

③救いは恵みによって与えられるが､｢実｣はとどまりの生活によって与えられる。

＊弟子としていかに歩んだかが、将来の報奨に関係する。

(2) とどまらない者への警告（6 節の解釈）

①信者であっても、救いを失う可能性がある。

＊これは、聖書全体の教えと矛盾する。

②信仰は告白しているが、救われていない人のことである。

＊しかし、この場面には信者しかいない。

③実を付けない信者が受ける評価のことである。

＊文脈上のテーマは、「救い」ではなく「とどまること」である。

＊イエスにとどまって実を結ばないなら、その人の業績は火で焼かれる。

＊その人自身は、救いを失わない（1 コリ 3：11〜15)。

Ⅲ. 従順と祝福の関係（7〜8 節）

1. 7 節

Joh 15:7　あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

(1) 弟子の祈りには力がある。

①イエスにとどまる。
②その人の内側には、イエスのことばがとどまる。
③それゆえ、その人は、父の御心の沿った祈りをするようになる。
④御心に沿った祈りは、叶えられる。
＊神の時がきたなら叶えられる。
＊祈りの精神が叶えられる。

2. 8 節

Joh 15:8　あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。

(1) 聞かれた祈りは、弟子が結ぶ多くの実の一つである。
①多くの実を結ぶことは、イエスの弟子であることの証明となる。
②それによって、父が栄光をお受けになる。

Ⅳ. 愛と戒めの関係（9〜10 節）

1. 9 節

Joh 15:9　父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。

(1) イエスが弟子たちに示した愛の本質
①父がイエスを愛したのと同じ愛である。
＊質、深さ、高さ、幅において同じである。
＊それは、人知を超えた愛である。
②イエスにとどまるとは、イエスの愛の中にとどまることである。
＊愛に基づいた交わりと従順のうちに生きることを意味する。
＊救いの維持ではなく、弟子としての親密さの維持である。

2. 10 節

Joh 15:10　わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

(1) イエスの愛にとどまるとは
①イエスは、実に神秘的な命令を、具体的な形に置き換えた。
②イエスの戒めを守ることが、イエスの愛にとどまることである。
③手本は、父に従順な歩みをされたイエスご自身である。

(2) 3 者間の愛の流れ

①父が子を愛する（永遠で無条件の愛）
②子が信者を愛する（贖いと弟子道の中での愛）
③信者はキリストの愛の中にとどまる（応答的・従順的関係）

結論：今日の信者への適用

1. **努力の方向を変更する。**
   - **(1) 私たちは、自分の力で霊的に成長しようとしがちである。**
   - **(2) しかし、実を結ぶことは、キリストに「とどまる」ことからくる。**
   - **(3) 聖書の学び、祈り、礼拝など、日常生活の中でキリストとの交わりを第一にする。**

2. **試練を歓迎する。**
   - **(1) 霊的剪定（訓練）を成長の機会と捉える。**
   - **(2) 父なる神は、さらに実りある者とするために私たちを訓練される。**
   - **(3) 不必要な執着や自己中心が取り除かれ、主に頼る謙遜さと力が養われる。**

3. **みことばの蓄積を心がける。**
   - **(1) 現代は情報過多の時代である。**
   - **(2) この世の情報ではなく、みことばを心に蓄える。**
   - **(3) みことばに満たされることこそが、霊的浄化と力ある祈りにつながる。**

4. **主イエスへの愛を具体的に表現する。**
   - **(1) 現代人は、「愛＝感情」と捉えがちである。**
   - **(2) イエスは、「愛＝従順によって保たれる関係」と教えている。**
   - **(3) 日々の小さな従順（赦す・仕える・語る・耐える）が、愛の表現である。**